

日曜大殿説教

「おくる人、おくられる人」

平成二十一年八月十六日(日)午前九時 於大本山増上寺大殿

天然寺住職 後藤 尚孝

「讃題」

源空げんくうがごとき頑魯がんろの類たぐいは、更に其その器うつわにあらず。然る間、源空ほんしん発心はつしんの後、

聖道門しょうどうもんの諸宗しよしゆに付きてひろく出離しゆりの道をとぶろうに、彼も難かたく是も難これし。

是則すなわち代下りよくだ、人おろかにして機教ききょう背ける故なり。此この外ほか有智うち、無智むちを

論じぜず、持戒破戒じかいはかいを選じばず、時機じき相応そうおうして順次じゆんじに生死しやうじを離るはべき要法は、

只これ浄土の一門、念仏の一行なり。

一、 老いを前にして

二、 生き続ける死者と生者の絆

三、 映画『おくりびと』と原作「納棺夫日記」

四、 『納棺師なんていない』葬祭業界の声

五、 宗祖法然上人のことば

おおかた弥陀に縁えんあさく、往生に時いたらぬものは、きけども信ぜず、行ずるをみては、腹をたて、いかりを含みて、さまたげんとすることにて候なり。そのころをえて、いかに人申し候とも、御おんころばかりはゆるがせたもうべからず。あながちに信ぜざらんは、仏なおちから及びたもうまじ。いかにいわんや、凡夫ちから及ぶまじき事なり。かかる不信の衆生のために、慈悲をおこして、利益りやくせんとおもうにつけても、とく極樂へまいりて、さとりをひらきて、生死しじうていにかえりて、誹謗不信ひぼうふしんのものをわたして、一切衆生あまねく利益せんとおもうべき事にて候なり。

〔津戸つとの三郎さんらうへつかはす御返事「九月十八日付・昭法全503」〕

そもそも阿弥陀さまとの御縁が浅く、まだ極樂往生に思いの及ばぬ人たちは、念仏往生の教えを聞いても信じることはありません。そればかりか、念仏している者を見ては、腹をたて、怒りをおぼえ、それを妨げようとさえするのです。とかくそういうものだど心得て、たとえどんなことを言われても、心だけはしっかりとゆるがないようにして下さい。お念仏の教えを頭から信じようとしなない人たちには、たとえ仏さまでも力が及ぶものではありません。ましてや、私たちのような凡夫の力の及ぶものではありません。このように仏さまの教えを信じようとしなない人たちのために、私たちは慈悲の心をおこし、彼らの手助けをしようと思うのですが、それにつけても、はやく極樂浄土に往生して、覺りをひらいて、この生死の迷いの世界に再び還かえり、仏さまの教えを謗そしつたり、信じようとしなない者をも往生させて、すべての人びとを救おうと思おもうべきでしよう。